

植 防 い し か わ

令和 5（2023）年 5 月 1 日 発行

編集・発行

公益社団法人 石川県植物防疫協会

金沢市田中町か 26 - 1

石川県農業共済会館内

T E L 076-239-1511

印 刷 株式会社 共 栄

No. 162

協会設立50周年記念式典の開催

会員の皆様をはじめ、関係機関の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

令和 5 年 3 月 22 日にホテル日航金沢におきまして、当協会の設立 50 周年記念式典を開催しましたところ、会員の皆様をはじめ多くの方々の出席を賜り、心より感謝申し上げます。おかげさまで盛会裏に終わりました記念式典の概要を次のとおり紹介いたします。

【記念式典の概要】

式典は 3 部構成で行いました。最初は基調講演で、毎年実施している「植物防疫指導者研修会を兼ねました。石川県農林総合研究センター所長の藪哲男様に「近年開発された害虫防除技術について」と題して、また農林水産消費安全技術センター農薬検査部長の入江真理様に「農薬登録から見た農薬開発の現状と今後の動向について」と題してご講演いただきました。



開式の辞（田中会長）

基調講演終了後、会場を移し功労者表彰を

行いました。表彰式に先立ち、田中会長からの開式のあいさつの後、協会設立 50 周年を寿ぎ、石川県知事馳浩様からのご祝辞を石川県



感謝状を受けた4名の方々と一緒に

農林水産部次長の江藤秀明様より頂き、続いて石川県農業協同組合中央会代表理事会長の西沢耕一様よりご祝辞をいただきました。その後、武田事務局長が協会設立 50 年の歩みを概観しました。表彰式では、当協会の発展に寄与された前会長の矢田富郎氏、前事務局長の松浦博一氏、前技術主幹の橋本良一氏およ

び前技術主幹の田中和人氏の4名に、その功績を称え感謝状を贈呈しました。さらに矢田富郎氏におかれましては、約32年の長きに亘り（平成元年（1989年）7月7日～令和3年（2021年）6月28日）会長理事を務めていただき、協会の発展に多大の貢献をされましたことから、一般社団法人日本植物防疫協会から感謝状が贈呈されました。

引続いて、一般社団法人日本植物防疫協会専務理事の富田恭範様からご祝辞を頂くとともに、乾杯の音頭を取っていただき祝賀会を開宴しました。感謝状受賞者4名の方々の協会在籍中の楽しいお話を聴かせていただきました。また「ゆうなぎクインテット」により木管5重奏の調べの中での会食となり、豊かな時間を過ごさせていただきました。その後、当協会の理事である石川県農薬卸商業



ゆうなぎクインテット（木管5重奏）

協同組合理事長の中村哲郎様より正会員、賛助会員ほか多くの関係機関の皆様への感謝とこれから先の決意表明を込めて、万歳三唱のご発声をいただきました。最後に、当協会の副会長理事で石川県農業協同組合中央会専務理事の西利章様より閉会のごあいさつをいただき、設立50周年記念式典を閉じました。

50年前に産声を上げて、その後法人化するなど組織体制を強化しつつ、石川県や農業関係機関、農薬メーカーの皆様との連携を図り、多くの農薬試験など植物防疫活動に取り組んで参りました。ここまで来ることができたのも、正会員、賛助会員をはじめ、これまでお付き合いいただいた方々や諸先輩方のおかげとっております。本当にありがとうございます。そして、今ここに初心に立ち返り、次の50年後を目指して精進してまいりたいとっております。



令和4年度 主要病害虫の発生状況

石川県農林総合研究センター 病害虫防除室

水稻(23,800ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
育苗期の病害	平年：やや少 前年：並	(1) 育苗期の細菌病では、苗立枯細菌病が発生した。 (2) ピシウム、フザリウムによる苗立枯病の発生は少なかった。	(1) 期間中の寒暖差が大きく、細菌病の発生しやすい環境だったと考えられる。

葉いもち	平年：やや少 前年：少	(1)本田初発は7月6日(平年7月2日)に確認された。 (2)梅雨明けは、「特定できない」となり、断続的に降雨があったが、気温は高めに推移し、BLASTAMによるいもち病感染好適条件の出現も少なく、葉いもちはやや少なかった。	(1)前年の穂いもちの発生は多であった。 (2)BLASTAMによるいもち病感染好適日の出現は少なかった。 (3)防除の行き届いていない圃場や、前年多発生ほ場で局地的に発生が見られた。
穂いもち	平年：少 前年：少	(1)穂いもちの発生は少なかった。	(1)葉いもちの発生が少なかったこと、出穂後の気温が高めに推移したことから、穂いもちの発生は少なかった。
紋枯病	平年：やや多 前年：並	(1)初発は7月4日(平年6月29日)に確認された。	(1)前年発生がやや多く、期間全体では気温が高く推移したことから、発生面積は前年よりやや多となった。 (2)6月上旬に低温期間があり、初発は平年よりやや遅くなるなど、全体的に発生が遅かったためか、晩生品種での被害が目立った。
白葉枯病	平年：やや少 前年：並	(1)全般的に発生はわずかだった。	(1)用水路の整備により病原菌の越冬源が減少している。
稲こうじ病	平年：やや少 前年：並	(1)全般的に発生は少なかった。	(1)中生の出穂期前後は少雨であった。
イネミズゾウムシ	平年：やや少 前年：やや少	(1)本田への侵入盛期は5月第4半旬で、発生はやや少なかった。	(1)発生は地域間で差が見られ、一部の山間部でやや多かった。 (2)予防粒剤が普及し、発生を抑えている。
イネドロオイムシ	平年：少 前年：やや少	(1)幼虫の加害は6月第2半旬から散見されたが、発生は少なかった。	(1)全般的に高温少雨で推移し、発生は一部の山間部で局地的に見た以外は少なかった。 (2)予防粒剤が普及し、発生を抑えている。
ツマグロヨコバイ	平年：並 前年：並	(1)本田すくい取りで、6月20日に七尾市の定点調査ほ場で初確認した。 (2)発生は平年並であった。	(1)本年はある程度の積雪があり、発生は平年並であった。 (2)前年に被害が発生した所では、畦畔除草、予防粒剤の施用や基幹防除を徹底し、発生が抑えられた。
セジロウンカ	平年：少 前年：やや少	(1)本田すくい取りで、6月27日(平年6月25日)に七尾市の定点調査ほ場で初確認した。 (2)発生は少なかった。	(1)6月下旬以降に県内への飛来があったが、飛来量は少なかった。
コブノメイガ	平年：少 前年：やや少	(1)発生は少なかった。	(1)飛来量は少なかった。
斑点米カメムシ類	平年：やや多 前年：やや多	(1)6月下旬に実施した定点(27地点)の雑草地における生息密度調査で、1地点当たりの平均成虫数は9.1頭で平年の1.2倍多かった。 (2)7月下旬に実施した本田侵入調査で、1地点当たりの平均成虫数は13.1頭で平年の1.7倍多かった。	(1)注意報を2回発表して防除を呼びかけた。 (2)田植え後から登熟期の9月にかけて概ね高温に推移したことから、雑草地及び水田内における生育密度はやや多かった。 (3)斑点米の発生は平年並～やや少であった。

大麦(1,340ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
赤かび病	平年：少 前年：並	(1)少発生であった。	(1)近年、少発生傾向にある。
オオムギ雲形病	平年：少 前年：やや少	(1)散発的に発生が認められた。	(1)近年、少発生傾向にある。
裸黒穂病	平年：やや多 前年：並	(1)少発傾向の中で、河北潟干拓地において集中的に発生が見られた。	(1)以前から、農薬の使用を減らす栽培ほ場が集中する地区で発生が見られていた。
うどんこ病	平年：やや多 前年：多	(1)前年発生は少なかったが本年はやや多となった。	(1)3月から4月にかけて温暖であったことから、発生が助長されたと考えられる。

大豆(1,630ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
紫斑病	平年：並 前年：やや多	(1)発生は平年並みであった。	(1)近年、少発生傾向にある。
茎疫病	平年：少 前年：並	(1)発生は少なかった。	(1)近年、少発傾向にある。
ハスモンヨトウ	平年：並 前年：やや少	(1)フェロモントラップの誘殺数は平年並で推移した。 (2)大豆圃場での食害は少なかった。	(1)基幹防除により発生は抑えられた。
フタスジヒメハムシ	平年：やや少 前年：並	(1)発生はやや少なかった。	(1)7月下旬～8月は降水量が多く、発生が抑えられた。 (2)播種時処理剤の普及及び8月の基幹防除により発生は抑えられた。
ハダニ類	平年：少 前年：やや少	(1)発生は少なかった。	(1)7月下旬～8月は降水量が多く、発生が抑えられた。
吸実性カメムシ類	平年：やや多 前年：やや多	(1)発生はやや早かった。	(1)5月～9月の生育期は高温に経過したことから、生息密度はやや多かった。 (2)予察灯の誘殺数はやや多かった。

なし(135ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒斑病	平年：やや少 前年：やや多	(1)発生はやや少なかった。	(1)平年並の発生で推移した。 (2)近年、抵抗性品種への切り替えにより発生は少なくなっている。
黒星病	平年：並 前年：並	(1)発生量は平年並みで、一部のほ場で発生が見られた。	(1)基幹防除により発生は抑えられた。
ハダニ類	平年：多 前年：多	(1)発生は多かった。	(1)5月～7月にかけて、全般に高温少雨傾向で推移し発生が助長された。

カメムシ類	平年：やや多 前年：並	(1)発生量は前年並で、平年よりもやや多かった。特に、中山間地で多かった。 (2)水銀灯への飛来数は、クサギカメムシ、チャバネアオカメムシが平年より多く、ツヤアオカメムシは平年より少なかった。	(1)本年は1月～2月の気温が低かったことから越冬密度が減少した。 (2)虫種別では、特にツヤアオカメムシの減少が大きかった。
-------	----------------	---	--

りんご(47ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
斑点落葉病	平年：やや少 前年：やや少	(1)全般に発生はやや少なかった。	(1)防除も含め栽培管理が行き届いていない園で発生している。
褐斑病	平年：並 前年：やや少	(1)発生は平年並みであった。	(1)防除も含め栽培管理が行き届いていない園で多発が見られる。
ハダニ類	平年：やや多 前年：並	(1)発生はやや多かった。	(1)5月～7月にかけて、全般に高温少雨傾向で推移し発生が助長された。

ぶどう(157ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：並 前年：並	(1)全般に発生は平年並みであった。	(1)5月～9月にかけて高温傾向に推移したため発生が抑えられた。

かき(297ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年：やや多 前年：やや少	(1)発生は平年よりやや多かった。	(1)前年の発生量が多かった。 (2)8月以降、降水量が多かったため、気温低下とともに進展した。
カメムシ類 (クサギカメムシ)	平年：やや多 前年：並	(1)発生量は前年並で、平年よりもやや多かった。特に、中山間地で多かった。 (2)水銀灯への飛来数は、クサギカメムシ、チャバネアオカメムシでは平年よりも多く、ツヤアオカメムシは平年より少なかった。	(1)本年は1月～2月の気温が低かったことから越冬密度が減少した。 (2)虫種別では、特にツヤアオカメムシの減少が大きかった。

すいか(296ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
つる枯病	平年：並 前年：やや少	(1)6月上旬から発生が認められた。 (2)発生は平年並みであった。	(1)5月～7月にかけて、降水量が少なく発生は抑えられた。 (2)8月は降水量が多く、発生を助長した。
炭疽病	平年：並 前年：並	(1)発生は平年並みであった。	(1)5月～7月にかけて高温少雨により発生が抑制された。 (2)8月は降水量が多かった。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	(1)発生量は平年並みであった。	(1)5月～7月にかけて、全般に高温少雨傾向で推移し発生が助長されたが、8月の多雨により発生は抑えられた。

夏秋きゅうり(54ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年：やや多 前年：やや多	(1)発生はやや多かった。	(1)8月の多雨、日照不足により発生が助長された。

冬春トマト(20ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：並 前年：やや多	(1)4月中旬から発生が認められたが、大きな進展はなく平年並みであった。	(1)5月～6月にかけて高温多照に推移し、発生が抑制された。

秋冬ダイコン(226ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
コナガ	平年：やや少 前年：並	(1)フェロモントラップの誘殺数は少なかった。 (2)調査は場における発生はやや少なかった。	(1)本年は1月～2月の気温が低かったことや、8月の多雨・日照不足により発生は抑えられた。

夏秋キャベツ(13ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
ヨトウガ	平年：やや多 前年：やや多	(1)フェロモントラップの誘殺数は平年より多かった。 (2)調査は場における発生は平年並であった。	(1)8月に降水量が多かったが、5月～9月にかけて全般に高温少雨傾向に推移し発生を助長した。 (2)シロイチモジヨトウ等の他のヨトウムシ類の防除により、ほ場での本虫の発生は抑えられた。

夏ねぎ(25ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：やや少 前年：並	(1)発生はやや少であった。	(1)近年、少発傾向にある。

きく(4ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白さび病	平年：やや少 前年：並	(1)発生はやや少であった。	(1)5月～7月にかけて高温少雨により発生が抑制された。 (2)8月は降水量が多かった。

編 集 後 記

協会設立50周年記念式典を終えてホッとしております。思えば1年前の1月から準備を始めたので、かれこれ1年以上かかったことになります。春から秋にかけては作物残留試験や薬効薬害試験などのため準備作業はスローダウンしましたが、常に気がかりでした。新型コロナウイルス感染者の動向がどうなるか見当が付かなかったこともあり、日程を年度末に設定しました。幸運にもコロナが終息傾向となり、無事に式典が実施できました。皆様に感謝いたします。ありがとうございました。